



特集 市民の力でまちを元気に

第39回登別こいのぼりマラソン

子どもの健全育成や市民の健康増進を目的に、昭和50年に始まった『登別こいのぼりマラソン』。今年は『大会を登別の一大イベントに』との関係者の思いから、市営陸上競技場を発着点に中央町や富士町など市内中心部を走り抜けるコースに変更し、5月11日(日)に約400人のランナーが参加して開催されました。

今号は、大会の成功を目指し、準備や当日の沿道整理などに、さまざまな団体に所属する市民約260人が協力した『第39回登別こいのぼりマラソン』の取り組みを紹介します。

**スポーツ関係団体が
集まり大会を運営**

『登別こいのぼりマラソン』は、昭和50年から平成23年までの36年間、登別市子ども会育成連絡協議会の主催により、毎年5月5日の『こどもの日』を中心に開催され、多くの市民が参加してきました。

近年は、マラソンへのニーズの変化により、参加者の減少が続いたことから、平成24年からは登別市子ども会育成連絡協議会に加え、登別市体育協会、一般財団法人登別市文化スポーツ振興財団、登別市スポーツ推進委員会、特定非営利活動法人おにスポなど、市内のスポーツ関係団体を中心に実行委員会を結成し、自動タイム計測の実施など、よりスポーツ性を高めた大会になりました。

**ランナーの安全確保
や負担が課題**

平成24・25年に実行委員会が開催した大会では、平成23年に引き続き、川上公園から鉢山町方面へ向かう道道をコースにしましたが、迂回路が無いことから交通規制ができず、ランナーは歩道と路肩のみの走行となったほか、コースの高低差が激しく、ランナーへの負担が多いことなどが課題として挙げられました。



01

- 01. 3キロの部の参加者約110人が、土煙を上げながら市営陸上競技場を一斉にスタート。
- 02. 早朝から受付会場を訪れる参加者（左）。
- 03. 開会式で準備体操。
- 04. スポーツ関係団体がみそ汁を無料で振る舞い、参加者をおもてなし。
- 05. 登別太鼓による勇壮な太鼓の演奏が、マラソンスタートに華を添える。



02



03



04



05

登別でも本格的なマラソン大会を



近年、健康志向の高まりからマラソンを楽しむ方が増え、たくさんの方々がまちを駆け抜けています。西胆振地域では、伊達ハーフマラソンや洞爺湖マラソンなどのように全国規模に成長した大会もあり、冷涼な気候や、登別温泉、カルルス温泉などの宿泊地のある登別でも大きなマラソン大会を開催し、市民が力を合わせてまちの活性化につなげることはできないか、『登別こいのぼりマラソン実行委員会』は、大会のあり方の議論を重ね、単なるスポーツイベントではない大会の理想像を掲げました。

- ①全国からランナーが集い、登別温泉やカルルス温泉に宿泊する
- ②地場産品の販売やPRを行う
- ③幼児や親子が気軽に参加できるコースもあり、あらゆる年齢層、レベルの方が参加する
- ④大会に多くの市民や企業が関わ

市民に大会を知ってもらい、ランナーへの応援を通して大会を盛り上げようと、平成26年の大会は市街地を通るコースへの変更を決定し、実行委員会の準備が始まりました。



市内から10^{キロ}の部に参加

ほんま きよかず
本間 清一さん

これからも完走を 目標に参加したい

マラソンは40歳のときに始め、30年以上になります。『登別こいのぼりマラソン』には、転勤で登別を離れていた13年間を除き、第1回から毎回参加しています。

川上公園から鉱山町方面へ向かう昨年までのコースも好きでしたが、今回の市街地を通るコースは、沿道から多くの方の声援を受けることができ、頑張つて完走しようと気が引き締まりました。ランナーにとって、声援は本当にうれしく、車の通行を心配することなく登別の市街地を楽しく走ることができました。

市営陸上競技場をスタートするときには、勇壮な太鼓の演奏が大会を盛り上げ、ランナーの背中を押してくれました。

これからも完走を目標に、この大会に参加したいですね。



09



07



06



10



08

- 06. らいば公園前を通過するランナー。
- 07. 沿道からランナーに声援を送る市民。
- 08. 市営陸上競技場に『登夢くん』（右）と『えんまくん』が登場。参加者と触れ合う。
- 09. 10^{キロ}の部の参加者は、市営陸上競技場のトラックを2周しコースへ飛び出す。
- 10. 市営陸上競技場で400^名の幼児の部がスタート。家族と一緒に笑顔で走る。

第39回登別こいのぼりマラソン コース



市街地を駆け抜ける 初のコースが実現

実行委員会には、市も協力し、市街地を通るコースの道路の交通規制を行うため、警察やバス会社との協議、交通規制周知看板の設置、参加者の募集など、開催日が近づくにつれ、準備作業を加速させました。

5月11日(日)の大会当日は、好天にも恵まれ、多くの市民が運営だけではなく、沿道整理やランナーへの給水などに協力して大会を支え、ランナーは沿道から市民の声援を受けながら、全員無事完走することができました。



登別こいのぼりマラソン

実 行 委 員 長 たか はし かず え さん 高橋 一栄さん

市民の皆さんの協力で感謝

好天にも恵まれ、大会を無事終了させることができました。市内外から参加したランナーの皆さんに、観光都市・登別の魅力を伝えることができたのではないかと思います。

私たちは、登別の市街地を走るコースで大会を開催することを目標にこれまで準備を重ねてきました。実現のためには道路の交通規制が必要で、警察やバス会社の協力を得ることができたのは、何より市民の皆さんの理解があったからと、心から感謝しています。

スポーツ関係団体や町内会、学校など、実に多くの団体が準備から運営まで担いやり遂げたイベントは、そう多くないと思います。改善点はありますが、この成果を大切にしながら、市民がまちを盛り上げる一大イベントにしていきたいと思えます。



16



13



11

- 11. ランナーが次々にゴール。
- 12. 3キロ親子の部の表彰式。笑顔を見せる参加者。
- 13. 給水所の運営を担当する登別青嶺高校ボランティア同好会の生徒。
- 14. ゴールしたランナーに水を手渡す幌別中学校の生徒。
- 15. ウォーキング・ノルディックウォーキングの部の参加者。
- 16. 表彰式では、幌別中学校吹奏楽部の生徒が生演奏で入賞者をたたえる。



14



12



15

市民の力を合わせてまちの元気と活性化を

スポーツ関係団体はもとより、学校や町内会、市内で活動するさまざまな団体が協力して実現した『第39回登別こいのぼりマラソン』。

参加者は昨年から倍増し、市外からの参加も目立つようになりました。

「将来は、登別を代表するスポーツイベントとして、市民だけではなく全国から参加者が集うマラソン大会に」との思いをひとつに、実行委員会は、来年以降もさらに多くの団体・企業・市民が参画する全市民的な大会とすることを目標にしています。幅広い市民がこれまで培った知識や経験などの力を合わせる取り組みは、マラソン大会の成功だけではなく、まちの元気や活性化にもつながる可能性を秘めています。

市民の思いが結集した大会に、皆さんも運営への協力やランナーとして参加しませんか。

登別こいのぼりマラソンに関する問い合わせは

社会教育グループ

☎88 1 1 2 9

FAX85 9 7 4 4

Eメール: syakyou@city.noboribetsu.lg.jp